

IX. (財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の事業活動(2005年度)

長村 文夫

(財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団事務局)

はじめに

2004年度の事業が、「国際セミナー開催事業」以外、いずれもほぼ計画通りに実施することができたのは、ひとえに事業委員をはじめ各事業をご担当くださった方々のご尽力の賜物と深く感謝している。

2005度の事業も、現在までのところ、ほぼ予定通りに進行している。

本年度の事業計画策定に当たり、事業委員会においていくつかの新規事業が提案され、従来実施されてきた各事業と合わせて慎重に検討された結果、19件の事業案件が採択された。

このうち、1. 調査研究事業、3. フォーラム開催事業は事業活動開始の当初から、4. 教育セミナー開催事業、5. 実践セミナー開催事業、6. ホスピス・ボランティア研修事業、7. APHN (Asia Pacific Hospice Palliative Care Network) 支援事業はいずれも2002年度以来の継続事業である。2. 専従医のための自己学習プログラム研究事業は3年目、9. ホスピス・緩和ケア白書も今回で3度目となる。8. 医学生の緩和ケア教育のための教員セミナー助成事業は、今年度で2年継続の事業である。また、12. 『がん緩和ケアに関するマニュアル』は、第1回の改訂配布を2001年度に実施しており、今回は第2回の改訂配布となる。

新規事業案件のうち、11. ホスピス・緩和ケアに関する意識調査は、ここ2年来にわたって計画、準備してきた案件である。14～18はいずれも新規案件で、その成果を注目したい。

本年度の特別プロジェクトとして、広島で国際セミナーの開催を計画・実施した。また、シシリ

ー・ソンドース博士を追悼する記念講演会とシンポジウムの開催計画が急遽計画され、現在、実施に向かって進行中である。

2005年度(2005年4月1日～2006年3月31日)の事業計画(一部は実施済み)の概略を以下に記す。なお、本稿は2005年11月2日に執筆したもので、記載中の敬称は略させていただいた。

事業活動

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業

1) 継続4件

- ①わが国における「緩和ケアチーム」の実態調査
- ②日本人遺族に応じた遺族ケアのあり方に関する研究
- ③リバプール・ケア・パスウェイ日本語版の作成と評価に関する研究
- ④緩和ケアのための標準カルテ・フォーマットの作成

2) 新規3件

- ① Staff grief and support system for Japanese health care professionals working in palliative care
- ② 終末期がん患者の倦怠感に対するアロマセラピーを使用した足浴の有効性の検討
- ③ ホスピス・緩和ケアにおけるソーシャルワーカーの教育プログラム作成

2. ホスピス・緩和ケア専従医のための自己学習プログラム研究事業

ホスピス・緩和ケア医療の専従医を志す医師の自己学習に役立つプログラムの開発を研究チームに委嘱して進めており、2005年度中に完了し、

公表予定。

3. ホスピス・緩和ケア フォーラム開催事業

ホスピス・緩和ケアについての正しい理解を、医療従事者とともに一般の市民の方々にも深めていただくために、講演とパネルディスカッションを軸としたプログラムで開催する。2001 年度から 2004 年度までに全国 17 都市で開催。本年度は旭川市で開催。

日時：2005 年 10 月 8 日 (土)

会場：旭川トーヨーホテル

講師：石垣靖子 (東札幌病院副院長, 北海道医療大学大学院教授)

参加者：350 名

4. ホスピス・緩和ケア教育セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア従事者のよりいっそう高い専門性の確立を目指して、比較的小人数の参加者を対象に講義とワークショップなどのプログラムで行う。2002 年度よりの継続事業で、ホスピス・緩和ケア従事者からの要望に応えるため、2005 年度は 2 回開催する。

① 2005 年 8 月 6~7 日：昭和大学横浜市北部病院, 参加者 38 名。

② 2006 年 1 月 14~15 日：(同上)

5. 緩和ケア実践セミナー開催事業

2005 年度財団事業として刊行配布した『がん緩和ケアマニュアル』改訂第 2 版 (厚生労働省・日本医師会監修) を教材にして、ホスピス・緩和ケア従事者以外、一般病棟、地域のクリニックなどの医療従事者、訪問看護師の方々に緩和ケアを学ぶ機会を提供する。2002 年度に東京で第 1 回を実施、以後 2003 年度は広島市、2004 年度は対象者の方々からの要望に応えるかたちで天津市と仙台市とで開催。2005 年度は 2 カ所での開催を計画している。

① 2006 年 3 月 4 日 (土) つくば国際会議場

② 2006 年 3 月 12 日 (日) ラフレさいたま (さいたま市)

6. ホスピス・ボランティア研修事業

ホスピス・緩和ケア病棟のボランティアの向上を目指して、全国病院ボランティア協会との共催で 2002 年度以来、継続して開催している。2005 年度は鹿児島と札幌で地域研修会開催。

① 鹿児島市：2005 年 5 月 16 日 (月) かごしま市民福祉プラザ, 参加者 120 名

講演「求められる病院ボランティア」

講師：中俣直子 (相良病院看護部長)

事例発表とワークショップ

② 札幌市：2005 年 6 月 27 日 (月) 札幌コンベンションセンター, 参加者 63 名

講演「音楽療法 — 音楽の可能性」

講師：近藤里美 (北海道医療大学看護福祉部臨床福祉学科助教授・カナダ音楽療法協会公認音楽療法士)

7. APHN (Asia Pacific Hospice Palliative Care Network) 支援事業

アジア・太平洋地域のホスピス・緩和ケア活動を推進し、その質を向上させるためにシンガポールに設立された法人である APHN の活動を支援。2001 年度以降、継続実施。

8. 医学生の緩和ケア教育のための教員セミナー助成事業

医学生の緩和ケア教育にあたる教員を対象とするセミナー (「大学病院の緩和ケア教育を考える会」主催) を支援・助成する。

2005 年 10 月 1~2 日：昭和大学横浜市北部病院, 参加者 26 名。

9. 『ホスピス・緩和ケア白書 2006』刊行配布事業

2003 年度、2004 年度に続いて、本年度も白書を刊行する。今回のテーマは「緩和ケアにおける教育と人材の育成」。

10. 一般広報活動事業

設立以来の継続事業である『財団ニュース』の発行 (第 9 号発刊済み)、ホームページの改訂、その他必要に応じて財団パンフレット改訂刊行などを行う。

11. ホスピス・緩和ケアに関する意識調査事業

ホスピス・緩和ケアに対する社会一般の意識調査を実施、現在、報告書を作成中。

12. 『がん緩和ケアに関するマニュアル』改訂配布事業

2001 年度に改訂・刊行した『がん緩和ケアに関するマニュアル』(厚生労働省・日本医師会監修) は、行政、医療関係者のセミナーなどに多数

提供してきたが、医薬品の進歩に鑑み一部改訂が望ましいところがでてきたので、9月に改訂刊行し、配布を実施中。

13. グリーフケア・ワークショップ 2005 開催助成事業

2004年度に引き続き、栄光ホスピス研究会（福岡）がオーストラリアから講師を招き、グリーフケアの研修会を福岡と大阪で開催する企画を助成する。

① 2005年7月23日（入門コース）：大阪・千里ライフサイエンスセンター、参加者71名。

7月25～27日（中級コース）：福岡市・都久志会館、参加者30名。

7月29～30日（上級コース）：（同上）参加者25名。

② 2006年1月22日（入門コース）、23～25日（中級コース）、27～28日（中級コース）：福岡国際会議場

講師：リンダ・エスピー（グリーフケアカウンセラー・教育者・スーパーバイザー）

14. ホスピス・緩和ケア病棟師長のための教育セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケア病棟の看護師長たちが現場で直面する病棟管理上の課題を明確にし、互いに課題を共有するためのワークショップを開催し、看護師長たちに向上の機会を提供する。

教育セミナー：2006年1月7～8日、アルカディア市ヶ谷

ワークショップ：（1回目）2005年10月22日、ピースハウス病院。（2回目）2005年12月10日、湯川胃腸病院（大阪）

15. STAS (Support Team Assessment Schedule) ワorkshop開催事業

英国で開発されたケアの評価方法である STAS 日本語版（財団で刊行）を用いて、ケア従事者を対象に「毎日のケアを見直すための演習と講義」のワークショップを開催する。なお、STAS 日本語版は財団のホームページからリンク可能。

東京：2005年7月10日（日）、アルカディア市ヶ谷、参加者151名。

山口：2005年11月18日（金）、ぱるるプラザ山口。

16. スピリチュアルケア援助プロセスのワークショップ開催事業

緩和ケアに携わる医師、看護師などの医療従事者を対象に、定式化されたスピリチュアルケアの援助プロセスについての演習を実施する。

① 2005年8月7日（日）、天使大学（北海道札幌市）、参加者65名。

② 2005年8月28日（日）、鹿児島県市町村自治会館（鹿児島市）、参加者41名。

③ 2005年10月9日（日）、会場：高崎地域医療センター（高崎市）、参加者84名。

17. 遺族支援のための情報提供事業

遺族にとって、悲嘆からの回復は大きな課題である。遺族に提供されるべき知識や情報の内容を吟味し、遺族の悲嘆プロセスについての一般的知識を「悲嘆パンフレット」（仮称）にまとめる。

18. 緩和ケアの領域における心理社会的サポートに従事するコメディカル・スタッフ対象の継続教育プログラム開発のためのワークショップ助成事業

2005年11月27日、国立がんセンター中央病院。

19. 特別プロジェクト（I）：（国際セミナー開催事業）

地域医療あるいは在宅ケアなどがクローズアップされているのを背景として英国から医師と看護師を講師として招聘し、「地域に根ざした緩和ケアサービスを目指して」という主題で、保健医療福祉関係者を対象に広島市においてセミナーを開催する。

日時：2005年10月1日（土）9：30～16：30

場所：広島市 広島国際会議場「ヒマワリ」

基調講演：

〔テーマ〕「コミュニティにおける緩和ケアの実践」

〔座長〕志真泰夫（筑波メディカルセンター病院）、阿部まゆみ（広島県緩和ケア支援センター）

〔講師〕Niegel Sykes（聖クリストファーホスピス、ホスピス長）、Sally Stannard（聖クリストファーホスピス、在宅ケア看護師）

シンポジウム：

〔テーマ〕「地域に広げよう緩和ケアの輪」

〔司会〕志真泰夫（筑波メディカルセンター病院）、本家好文（広島県緩和ケア支援センター）

〔シンポジスト〕川越 厚（ホームケアクリニック川越）、田村里子（東札幌病院）、押川真喜子（聖路加国際病院）、阿部まゆみ（広島県緩和ケア支援センター）

参加者：約 600 名

20. 特別プロジェクト（Ⅱ）：シシリー・ソング博士追悼一記念講演とシンポジウム

2006年2月26日（日）、笹川記念会館・国際ホール（東京）。

〔講師〕尾崎 雄，柏木哲夫

シンポジウム：〔座長〕志真泰夫，山崎章郎，

〔シンポジスト〕柳田邦男，季羽倭文子，柏木哲夫

おわりに

日本の医療を取り巻く環境は、医療制度改革の激浪の中で大きく変わろうとしている。しかも、この改革の背景には少子高齢化をはじめとする日本の社会の変動、そして人々の意識の変革がある。そうした変動の中であって、私たちも必要な対応を迫られることになるだろうが、同時にこうした時こそ、故シシリー・ソング博士が示されたホスピスの原点をしっかりと見据えて、ホスピス・緩和ケア活動を進めていかなければならないのだろうと思う。病床の絶対数の増加、在宅ケアのための医療や介護のネットワークの構築、人材の養成等々、私たちに与えられている多くの課題を財団も共に担って事業活動を進めていきたい。